



聴覚障害児

支援だより

No.3

令和4年12月発行

手話で『支援』

岡山県立岡山聾学校 きこえの相談室
Tel: 086-279-2127 Fax: 086-279-8960
E-mail: okaro08@pref.okayama.jp (きこえの相談室専用アドレス)



校外支援について

「聴覚障害教育のセンター的機能を果たす」ということは岡山聾学校のミッションの一つです。岡山聾学校では以下のような校外支援を行っています。

- ・乳幼児教育相談(0～2歳:本校にて)
- ・就学前教育相談(3～5歳:本校にて)
- ・県中北部相談支援室(0歳～高校生、またその関係者)
 - 吉備中央相談支援室(岡山県総合教育センターにて:月1回)
 - 津山相談支援室(津山すこやか・こどもセンターにて:月1回)
- ・通級指導教室(通常学級に在籍する小学生:本校、倉敷) ※詳しくはNo2.で紹介
- ・交流会(難聴学級、通級指導教室に在籍する小学1・3・5年生) ※来年度より
- ・特別支援教育エキスパート派遣事業
 - ・きこえの相談室
 - ・出前授業

以上の中で、「特別支援教育エキスパート派遣事業」は、昨年度まで「専門指導員派遣事業」という名称から変更になったもので、少し詳しくお知らせしたいと思います。

特別支援教育エキスパート派遣事業

- ・岡山聾学校は、岡山県下全ての地域の保育園、幼稚園、こども園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等を対象に聴覚障害に関連する支援を行います。聾学校の特別支援教育エキスパートが派遣要請のあった学校園等を訪問し、聴覚に障害のある幼児児童生徒に対する指導内容・方法、学校等の支援体制等について、一緒に考えたり、職員研修をしたりします。
- ・聴覚障害について理解するための校内研修の講師依頼や、個々の幼児児童生徒への支援以外の内容も受け付けています。岡山聾学校のホームページに様式を掲載していますのでご活用ください。

特別支援教育エキスパートによる指導・助言の例

- ・学習環境について(聴覚保障システムの活用、児童生徒の座席の位置など)
- ・きこえ方の理解について(聞き取りにくい音域や補聴器の扱い方など)
- ・自立活動について(目標や指導内容の設定など)
- ・支援や指導の整理について(個別の指導計画、個別の教育支援計画、合理的配慮など)

在籍校の先生方からよくある質問

【コミュニケーション・自立活動の時間に関する Q&A】

Q：言葉の数（語彙）を増やすには、どのようにしたらよいですか。

A：お子さんの年齢、身近な言葉・抽象的な言葉等で違いはあると思いますが、以下に挙げたような取り組みが一例として考えられます。

- ・生活の中で体験したことを、身振りや手話、言葉に置き換えて表すことを心がける。
- ・興味を示したときを大切に。知りたいときに、言葉絵辞典等を使い大人と一緒に調べて、わかった喜びを共有する。（心が動いたときがチャンス！）
- ・身の回りの物の名前をカードに書き、実物に貼っておく。見る機会を増やす。
- ・黒板に新出語句のコーナーを設け、新しい言葉を習ったら、それを板書してしばらく書き残すことで、何度も目にふれるようにしておく。

【補聴器（聞こえ）等に関する Q&A】

Q：聾学校は他の学校に在籍しているお子さんのデジタル無線のマイクの提供や使用の推奨について、通常学級の先生に対してどんな働きかけをしていますか。

A：デジタル無線についての情報提供（機能など）を行っています。機器の提供や貸し出しは行っていません。困っておられる通常学級の先生からの質問や相談に応じて、聴覚障害、補聴器や人工内耳、支援する場合の留意事項などについて説明する機会を設けることもしています。

【教科指導・支援に関する Q&A】

Q：聾学校は、他の学校に在籍しているお子さんに対してどんな支援をしていますか。

A：小学校の通常学級に在籍している聴覚障害のお子さんに対しては、「通級指導教室」という支援があります。週に1回70分の範囲で、本校か倉敷サテライト教室（老松小学校内の教室を借用）で行っており、年に2回の在籍校訪問もしています。現在小学生だけが対象です。それ以外の方は、学校に対して聴覚障害についてや聴覚障害者理解、コミュニケーション面で気をつけてほしいことなどをお伝えする訪問支援（特別支援教育エキスパート派遣事業）や来校相談などの相談支援を行っています。

おねがい

新型コロナウイルス対策のため、マスクを着用するのが当たり前になっています。しかし、難聴の子どもの中には、話し手の口の動きを見て内容を把握している人も多くいます。例えば、口の動きのわかるマスクを着用するなど、場面に応じた配慮をしていただけるとありがたいです。



また同じ理由で、授業中に先生が板書しながら背を向けて話をするとうちがわからないこともあります。担任の先生だけでなく、難聴の子どもに関わるすべての先生方にこれらのことを広めていただけると幸いです。